

旧赤松家だより

令和元年9月4日



厳しい残暑が続いていますが、ツクツクボウシ、虫の音に初秋を感じる今日この頃です。

さて、旧赤松家記念館の和室では、9月から展示の一部を変更しました。その中に、則良の長男である範一の煙管入れきせると葉篋やくろうがあります。いずれも微細工入り象牙根付がつけられ、収集家としての範一を知る上で貴重な一品です。

明治3年(1870)に生まれた範一は、大正6年(1917)、則良の隠居に伴い、家督かどくを相続、男爵となり、翌年に貴族院議員になっています。

また、満州パルプ工業や東京製綱の他10数社の取締役などを歴任し、長く実業界で活躍しました。戦後、磐田に東京製綱が誘致されたのも範一の影響によるものでした。

一方、江戸学・民俗学などにも精通した文化人で、見付の古話をまとめた「見付志料」や「赤松則良半生談」を著しています。範一によって建造された図書蔵は、近代建築の要素と日本の伝統工法が混然一体となった見どころの多い建物です。新しい展示と合わせ、ぜひご覧ください。

内蔵1階ギャラリーでは、4日から『窪野奈美枝作品展』を開催しています。点描画という珍しい技法の作品をお楽しみください。

なお、写真撮影はできませんのでご了承ください。



葉篋

内蔵ギャラリーのご案内

『窪野奈美枝作品展』

開催期間：9月4日(水)～9月16日(月)

*休館日 9月9日(月)

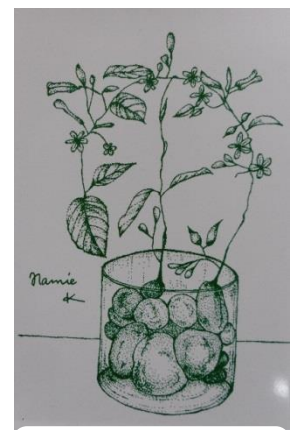
開催時間：午前9時～午後4時30分

(最終日は午後2時30分まで)

入場料：無料

出展者：窪野奈美枝

問い合わせ：旧赤松家記念館 0538-36-0340



展示作品より